

# 成人を対象にしたピアノを用いない学習支援の一考察 —紙鍵盤の活用と継続学習を促す指導内容を中心に—

大人のピアノ研究会代表 三上香子

## はじめに

コロナパンデミックにより、カルチャーセンターのピアノグループレッスンでは受講者の増減が著しい。だが、コロナ禍には、自粛期間を踏まえた学習動機と楽器を保有していない新規受講者が多数みられるようにもなった。他方、成人を指導の対象にしているピアノ指導者は、ライフワークとしての音楽の愉しみを伝えることを務めとする。具体的には、愉しみながら楽器の上達を見据えた、継続的な学習支援をめざしているのである。

そこで本稿では、このような現状を鑑みて、ピアノを用いない学習と継続学習を促す指導内容に関する先行研究を渉猟し、それらの結果から、コロナ禍における成人を対象にしたピアノを用いない具体的な学習支援について検討することを目的とする。

## 1. 背景

### (1) コロナ禍の音楽業界

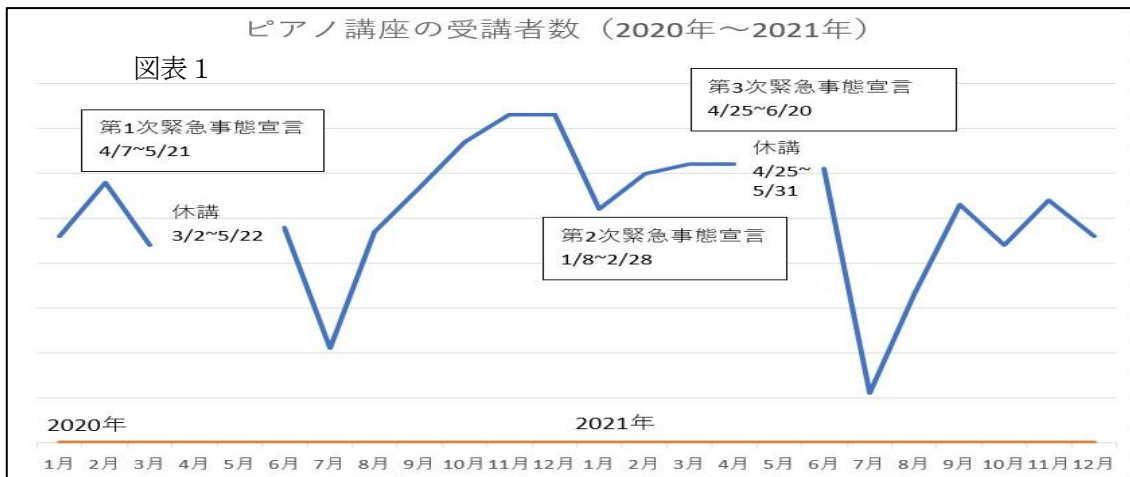
2022年に公開された音楽業界の調査結果は、とても興味深い。例えば東京商工リサーチの習い事調査によると、コロナ禍における2020年度の音楽教室倒産数は過去最多であり<sup>1)</sup>、2021年度の休廃業や解散も、10年間で最多を記録したと記載されている。ところが日本経済新聞や福井新聞では、自粛期間中に楽器をはじめる人が増加していると述べている<sup>2)</sup>。このように矛盾する情報がみられる理由は、楽器店の経営内容や学習者の年代や学習方法など様々な要因が考えられる。しかし、それよりもやはり世界的なパンデミックのなかで、音楽業界が大きく揺れ動いている様子をあらわしていると考えられる。

さて、下記の図表1は、筆者が講師を務めている大阪府下のカルチャーセンターのピアノグループレッスン受講者数の推移である。グラフからは、受講者の著しい変動がみてとれる。このようにコロナパンデミックは、カルチャーセンターにも大きな影響を与えているといえるであろう。

---

1) 2020年度「習い事教室の倒産動向」調査 東京商工リサーチ <[https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20210312\\_02.html](https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20210312_02.html)>2022. 5. 20 最終検索。

2) 「ギターやウクレレ、売り上げ倍増 コロナ下レッスン盛況」日本経済新聞ホームページ、2020年<<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0DJ2914R0Z21C20A1000000/>>2022. 5. 20 最終検索。「コロナで楽器ブーム売れ筋はウクレレ：電子ピアノも、「おうち時間」増え」福井新聞オンライン、2020年。<<https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/1188679>>2022. 5. 20 最終検索。



社会教育学研究第 55 号より引用<sup>3</sup>

## (2) 新規受講者の特徴

ところで、コロナ禍におけるピアノグループレッスンへの新規受講者には、これまでとは異なる2つの傾向がみられる。第1は、学習動機についてである。コロナ禍以前の新規受講者には、「ボケ防止のため」「ピアノを弾いてみたかったから」などの健康面や精神面など内因的な学習動機が多くみられた。しかしコロナ禍には、「自粛期間に楽器でも始めようかと思った」という発言が頻繁にみられるようになった。なお、自粛後の学習についてはとくに語られていないことから、かれらは必ずしも長期的かつ継続的な学習を念頭においていないことがうかがわれる。

第2は、楽器の保有についてである。以前の新規受講者は、自宅にすでに鍵盤楽器（ピアノ、電子ピアノ、キーボードなど）を保有していたり、学習開始と同時に楽器を購入していたりした。しかしコロナ禍の新規受講者には、学習開始時に楽器を所有していない者が多数存在する。その背景には、どうやら学習を続けられそうなら楽器の購入を検討するという姿勢のようである。

これらの発言から、コロナ禍の新規受講者には、ピアノを用いない指導と継続学習を促す指導内容という2つの視点からのアプローチが必要であると考えられた。そこでこれらの内容について先行研究の渉猟を試みた。

## 2. 先行研究

### (1) ピアノを用いない指導

3) 中野陽子・三上香子「コロナ禍におけるカルチャーセンターの音楽講座の動向：—コロナ後の音楽講座の将来的役割像を求めて—」『社会教育学研究』第55号、2022年。

ピアノを用いない指導については、保育者養成校の学生や成人を対象にした研究や書籍が存在する。例えば戸川晃子らは、学生のピアノ経験者を対象に、ピアノを弾かずに練習した場合とピアノを弾いて練習した場合について比較検証した<sup>4</sup>。その結果、ピアノを用いない練習でもピアノを用いた場合の約6割の演奏向上がみられると述べている。また清水悠花らは、学生をピアノ初心者と経験者をそれぞれピアノグループ、アプリ（ピアノ練習用のスマートフォンアプリ）グループ、紙鍵盤グループの3つに分けて比較検証した<sup>5</sup>。その結果、ピアノ学習経験の有無を問わず、ピアノを用いない練習でも演奏技術が向上すると述べている。さらに木原加代子は、紙鍵盤とYouTubeを活用した対面とオンライン授業を実施した<sup>6</sup>。その結果、オンラインレッスンとYouTubeを用いた授業では、ピアノに苦手意識をもっていた学生が興味や関心を高め、ピアノを弾くことへの意欲の喚起を図ることができるとした。なお紙鍵盤学習については、学生側や指導者側の問題点が指摘されている。

他方、成人を対象にしたピアノを用いない指導については、ピアノ指導者の経験知をもとに書かれた記事や書籍がある。例えば渡辺圭子は、ピアノ専門誌にて、紙鍵盤を使ったグループレッスンを提案し、具体的な紙鍵盤学習の特長をあげている<sup>7</sup>。また元吉ひろみは、60歳以上のシニアを対象に、紙鍵盤とレッスンCD付きのピアノ教本『指でなぞる大人のピアノ』を刊行している<sup>8</sup>。以上のように、学生を対象にした先行研究では、技術や学習意欲の向上があきらかにされるとともに、成人においては紙鍵盤を中心とした実践的な教本が刊行されている。

## (2) 継続学習を促す指導内容

継続学習についてもっとも多くみられるのは、子どもを対象にした書籍や教本である<sup>9</sup>。これらの書籍や教本は、ピアノ指導者の知識や経験をもとにした実践的な内容であり、ピアノ教室の運営についても言及されている特徴を持つ。なお本稿では、成人を対象にしているため、これらの書籍や教本についての言及は割愛されたい。

次に、学生を対象にした研究では、保育者養成校の研究がみられる。例えば友廣憲子は、学生がモチベーションを維持するためには、保育現場で必要な教則本や童謡の合格曲数を増やすことが効果的であると述べている<sup>10</sup>。また杉山祐子らは、レパートリーや練習方法に焦

---

4) 戸川晃子「ピアノを用いない練習による演奏表現向上に関する研究」神戸常盤大学紀要第8号、2015年。

5) 清水悠花（他3名）「小学校教諭免許取得をめざす学生を対象としたピアノを用いない練習による演奏技術の向上に関する研究：ICTの活用」教育システム情報学会、JSiSE研究会研究報告、32巻、2017年。

6) 木原加代子「オンラインによる大学生へのピアノ指導の在り方：紙鍵盤とYouTubeを活用して」音楽文化の創造（CMC電子版）、Vol.15、2021年。

7) 渡辺圭子「大人のピアノ指導法講座」『ムジカノーヴァ』、音楽之友社、1990-1991年。

8) 元吉ひろみ『指でなぞる大人のピアノ』ダイヤモンド社、2007年。

9) 書籍は、ますこしょうこ『生徒がやめない！ピアノ教室』ヤマハミュージックメディア、2013年など、子どもを対象にした教本は多数あり。

10) 友廣憲子「「保育の表現技術」科目系列の音楽（ピアノ）学習課題について：到達度調査と授業に対するアンケートを通して」長崎短期大学紀要33、2021年。

点を当てた指導を強化することの重要性を述べ、現場での姿を視野に入れた指導をおこなうことが学生のピアノ練習の価値を高め、ピアノ練習の自主的な継続の一助となると述べている<sup>11</sup>。他方、わずかながら成人を対象にした継続学習に関する書籍も刊行されている。例えば、大人のピアノ指導者である大村典子らは、学習開始後2年を過ぎたころに退会者が増加するとし、それを乗り越えるためのレッスン上の問題を質疑応答の形で提示している<sup>12</sup>。また、ピアノ指導者やピアニスト、哲学者など国内の著名人11人が、「ピアノを続けていた理由」を綴った興味深い書籍もある<sup>13</sup>。さらに最近では、97歳のピアニスト室井摩耶子や<sup>14</sup>、50歳になってからピアノをはじめた稲垣えみ子など<sup>15</sup>、シニアのピアノ学習者の経験談が刊行され話題になっている。

### 3. 先行研究の考察

#### (1) ピアノを用いない指導の考察

学生を対象にした先行研究では、インターネットを利用した調査が実施された。しかし成人（とくにシニア）については、インターネット環境が不十分だったり、スマートフォンやタブレットの操作に不慣れだったりする学習者の存在が予想される。そこで筆者は、先行研究で使用されていた紙鍵盤学習に着目した。下記の図表2は、先行研究内で紙鍵盤について書かれた記述をまとめた表である。成人を対象にした紙鍵盤を用いたピアノ指導では、上記の内容を留意点とした学習支援が考えられるであろう。

図表2 先行研究における紙鍵盤関連の記述内容

木原による学習者と指導者の視点（木原 2021）
<p>学習者の視点・自分が弾いている音を聞くことができない ・音源がない中での練習は、魅力に欠ける</p> <p>指導者の視点・音が出ないためミスタッチを見逃すことがある</p> <p>・強弱がつけられないために細かい指導がしにくい</p>
渡辺による紙鍵盤の8つの特長（渡辺 1996 <sup>16</sup> ）
<p>・場所を取らない ・経済的である ・多人数を一度にできる ・音が出ないので自分なりのレッスン（練習）ができる ・上下に動かない（鍵盤が下がらない）ので指の動きがはっきりと目で見てわかる・知らない曲でも平気で挑戦できる ・他人の良い所を真似して練習できる ・暗記（暗譜）の確実度をチェックできる （カッコ内は筆者の補足）</p>

- 11) 杉山祐子・粟屋晴香「ピアノ学習の自主的な継続のための指導法について」中部学院大学教育実践研究第5巻、2019年。
- 12) 大村典子・大崎妙子『大人のピアノ長続きのコツ』ヤマハミュージックメディア、1997年。
- 13) ジェーン・バスティン他10名『あなたがピアノを続けるべき11の理由』ヤマハミュージックメディア、2011年。
- 14) 室井摩耶子『毎日、続ける』河出書房新社、2018年。
- 15) 稲垣えみ子『老後とピアノ』ポプラ社、2022年。
- 16) 渡辺圭子「ピアノ・レッスン「ネコふんじゃった」からはじまった(4)紙鍵盤でのレッスンの効用」『ムジカノーヴァ』27(7)、音楽之友社、1996年。

紙鍵盤は「トレーニングシート」「紙ピアノ」などの商品名で市販されているし、無料でダウンロードも可能である。このように紙鍵盤は、誰でも容易に手に入れることができることが最大の利点である。しかし紙鍵盤は、折れ曲がったり練習中に破れたりするなどの脆弱性が考えられる。

そこで筆者は、紙鍵盤の代用品として、ミニキーボードとロールピアノの採用を検討した。これらはどちらも、ピアノの代用品として市販されている楽器である。

図表3 ミニキーボードとロールピアノ（公式ページより引用<sup>17)</sup>）



ところが、実際に使用してみると、ミニキーボードは鍵盤数が少なすぎるために、両手奏の練習には不十分だと感じられた。また、鍵盤の大きさがピアノとは大きく異なるため、ピアノを演奏した際に戸惑いが生じることが予想された。他方ロールピアノは、鍵盤数、鍵盤の大きさなどに問題はみられない。しかし繊細な電子楽器のため、正確に発音させるためには打鍵に工夫が必要だと思われた。また、ネット上の評価では、故障しやすいという口コミが多々みられた。

これらを考慮した結果、紙鍵盤の代用品としては、①持ち運びできる（レッスンに持参できる）、②容易に購入できる、③安価である、④壊れにくい、⑤両手で練習できる程度の鍵盤数がある、⑥鍵盤の大きさがピアノに準じているという6つの条件を網羅した商品が必要であると考えられた。

## (2) 継続学習を促す指導内容の考察

学生を対象にした研究では、保育現場での姿を視野に入れた指導をおこなうことについて述べられていた。しかし多くの成人は、資格取得や就職のためにピアノ学習をするわけではない。さらに、先行研究では短期大学での2年間を継続期間としているが、成人のピアノ学習者には時間的な拘束がない。このように学校教育としてのピアノ指導と余暇活動としての学習支援では、そもそも学びの方向性が異なる。したがって、先行研究で示された研究結果が、成人の継続学習にそのままあてはまるかどうかは再興の余地がある。

次に、ピアノ指導者による大人の継続学習については、ピアニストやピアノ指導者やシニアのピアノ学習者の経験が語られていた。確かに、成人が著名人の経験談を読むことで、自

17) (左) CASIO 44 ミニ鍵盤 電子キーボード SA-76、ONETONE、(右) OTR-49 [ロールピアノ 49 鍵盤 内蔵バッテリー駆動]

分と重ね合わせて苦勞を分かち合い、学習を継続しようとする意気込みを得ることは考えられる。しかしこれらの書籍は、あくまで個人の経験談であり、あとがきにも記載されているように<sup>18)</sup>、一般的な成人がピアノ学習を方法やコツが書かれているわけではない。したがってこれらの先行研究からは、筆者が知りたかった継続学習を促す具体的な指導内容は得られることはなかった。

そこで筆者は、現在学習中のピアノ学習者ではなく、これからピアノ学習を始めようとする受講者の発言に着目した。なぜなら、かれらはピアノ学習への憧れをもつと同時に不安も抱えている。ゆえに、かれらが抱える不安を解決し憧れに繋ぐことが、本格的にピアノ学習を開始するきっかけになり、のちの継続学習にも繋がるのではないかと考えたからである。

新規受講者のうち、とくに幼少期や成人後にもピアノの学習経験をもたない受講者からの不安や憧れに関する発言は、大きくわけて3つある。はじめは「読譜に対する不安」で、次は「リズムに対する不安」である。楽譜を正しく読み、正確なリズムで打鍵することはピアノ演奏には欠かせない。最後は、「両手で弾けること」である。これは憧れとして述べられることが多い。以上の3点が、筆者の経験から導き出した、継続学習を促すと思われる具体的な指導内容である。

#### 4. まとめと課題

先行研究の渉獵から、成人を対象にしたピアノを用いない学習支援には、まず紙鍵盤の代替品の準備が考えられた。次に継続学習については、「読譜力とリズム感の育成」と「両手奏の成功体験」の3つを組み込んだ学習支援プログラムの構築が考えられた。なお、ピアノを用いない練習を無期限に続けることは、学習者にとって望ましいものではない。そのため、これらの学習支援プログラムの実施は、期間限定であることが好適だと思われる。

#### おわりに

本稿は、コロナ禍におけるカルチャーセンターの新規受講者の特徴に着目した論考である。しかし、昨今の習い事の多様化や日本の住宅事情などを考慮すると、パンデミック終息後も楽器を保有せず、継続学習を念頭に置かない新規受講者の存在が予想される。ライフワークとして音楽の愉しみを伝えることがピアノ指導者の務めであるとするならば、コロナ禍を機に、これらの特徴をもつ新規受講者には、早急に対応することが望まれるであろう。

---

18) 前掲 13、p. 126。